



第57回北海道小学校長会 総会・研修会 会長就任挨拶

第57回北海道小学校長会総会・研修会の開催にあたり、ただいまご承認・決定をいただきました平成26年度の役員・理事を代表して一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、公務ご多用にもかかわらず、北海道教育委員会 教育長 立川 宏様をはじめ、本会が日頃よりご支援をいただいている教育関係団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様のご臨席を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

また、新年度が開始されて1か月余りのお忙しい時期に、全道各地より代議員の皆様にお集まりいただいたことに、心から感謝申し上げます。

ご承知のとおり、北海道小学校長会は、「正論を以て、正道を歩む」という理念のもと、校長の職能の向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的に半世紀をこえる活動を展開してきた。こうした歴史と伝統ある道小の役員としての任をいただき、一同、責任の重さをひしひしと感じている。

先達が築き上げてきた業績や教育に対する熱き思いを引き継ぐとともに、地区校長会との連携と結束のもと、北海道の教育がますます発展するよう、全道1107名の会員の皆様とともに、全力を尽くす所存である。皆様のご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

さて、今日の重要な教育課題にかかわって、私の考えの一端をお話し、挨拶に代えたいと思う。

現内閣による教育再生実行会議では、教育委員会制度の改正をはじめとして、道徳の教科化、小学校英語の抜本的拡充や強化などについて、提言がなされた。

一連の提言は、より人間性豊かな子どもの育成と世界で活躍できる日本人の育成を図り、新しい時代に対応した教育を目指しているものと考えます。

私は、今日の北海道教育における重要課題について三つの面からとらえたい。

一つ目は、北海道教育の充実・発展を図る「教職員と一体となった学校づくり」についてである。

教育活動の日常とは、「校長先生、今日ね・・・」と話しかけてくる子どもとのふれ合い。「今日の授業で、あの子が・・・」と子どもの様子を伝えようとしてくる先生との語り。そして、子どもの問題解決に、校長と先生方とがともに知恵を絞り、子どもの成長の手応えをともに喜ぶ営みである。

学校が担う教育は、教科などの指導はもとより、子どもの豊かな人間性の育成や子どもの安全確保など、きわめて多岐にわたっている。さらに、子どもの安全への予見性、対応のスピードと的確性も求められている。

そのためには、全道の校長が一体となって本道教育の在り方を考え、関係機関と協力して、

その実現を図るという重要な責任をしっかりと果たす必要がある。

各学校においては、校長と教職員が一体となって、教育の使命と責任、高い志と子どもへの愛情をもって日々の教育活動の充実を図ることである。校長としては、目の前の子どもに対しての思いを教職員とともに語り、教職員の学校経営への参画意識を高め、新しいことに挑戦できる組織の活性化を図り、有能な組織としての学校を構築することである。

とりわけ「命と子どもの心」に関わっては、「子どもの声なき声に耳を傾けているか」「子どもの心のサインを見落とさず敏感に察知しているか」「友達を卑下する言動に対し毅然とした態勢でのぞんでいるか」など、子どもの人間関係をベースとして社会性を涵養していくと同時に、だめなことはダメという毅然とした態度で臨む学校の一貫した姿勢を、教職員と一体となって作り上げていくことが肝要である。

保護者や地域との連携を積極的に図る経営姿勢の下、より信頼を高め、厳しさの中にも温かなまなざしをもち、教職員と一体となって、学校の組織力を高め創造的な学校経営を確立していくことが重要であることを自覚したい。

二つ目は、「生き抜く力の育成」についてである。

第2期教育振興基本計画で謳われている「生き抜く力の育成」について、私は、「豊かに生きる」ことと捉える。

「豊かに生きる」ためには、基礎学力の定着は欠かすことのできない要素である。基礎学力の定着は、明日の子どもの未来を拓く営みであり、未来社会を担っていく人間の育成という学校教育の根本であり、我々校長の責務である。

また、「生きる力」の要素としてあげられている「思考力」「判断力」「表現力」、「意欲」「関心」「態度」などの「新しい学力観」は、『学び続ける力』や『物事への取り組み方』など、「豊かに生きる」子どもの将来を支える重要な資質能力である。

そして、その育成の中核には、毎日の授業が位置づけられ、今、その授業改善が求められている。

子どもへの洞察を深める教師の確かな目を磨くこと、子どもが生きる授業を工夫し続ける姿勢をもつことが授業改善である。

我々校長は、1時間1時間の良質な授業の積み重ねこそが、「豊かに生きる」道を拓くことであるという自覚と責任のもと、リーダーシップを発揮し、学校の組織力を高めていかななくてはならない。

PISA2015では、協働やチームワーク、ICTを使って社会と関わり合う力、つまり「協同型問題解決力」を問うと言われている。未来からの視点と広い視野で学力の「今」を捉え直し、新しい教育活動を展開する創造的な姿勢が、求められていることを銘記したい。

「豊かに生きる」ためには、体力の向上も欠かすことのできない要素である。

「運動が好き」「コツがわかる」という子どもの実感と心の動きに着目した授業改善、各学校で実践している1校1実践の改善・充実、家庭との連携など、着実な体力向上を図る教育活動の充実が重要である。

今を「豊かに生きる」創造的な教育活動の営みが、将来にわたって「豊かに生きる」ことであり、「生き抜く力の育成」を図ることになると確信している。

三つ目は、「教職員の力量形成」についてである。

これまで、学校職員評価制度や教員免許更新制度など、さまざまな制度が学校に導入されてきた。凍結されていた教職員の査定昇給が本年1月に解除され、実施への検討が進められている。これは、教職員が働きがいを実感することができ、学校経営を担う一員として、力量を高めるといふ人材育成の観点からとらえなければならないと考える。

このことは同時に、恣意や偏見にもとづかない公明・公正なものとして、校長による評価が何ら信頼を損なわないものであるという、校長の評価能力が問われていることを自覚する必要がある。

現状を静観して評価するという姿勢から、校長の積極的な経営姿勢を教職員の力量形成に結び付けること。教職員の力量形成の観点から、校長の職能向上と学校経営の充実を図るなど、校長の経営能力の向上が、教職員の力量形成を支えるとの自覚の下、その職責を果たしていきたいと考える。

道小としても今後、道教委に研修の重要性を伝えていくが、地区校長会においても職能向上の観点から校長の人材育成能力を高めるための研修を積極的に行い、その力量形成に努めるようお願いする。

「教員の質」という言葉は、「教員のやる気」と言い換えるべきだという言葉がある。だとすれば、教員の質の向上は、教員のやる気に灯を灯すことであり、そのためには、評価も含め、教職員の力量形成を図る校長の役割の大きさをあらためて自覚したい。

さて、「今日の北海道教育における重要課題」について私なりの考えを話してきた。今、教育界には課題が山積し、学校には閉塞感が漂いがちである。しかし、これらの課題を解決するための議論ではなく、妨げる要因探しに終始し、できない理由をあげる議論はやめたい。10年後、20年後の社会で生き生きと活躍する子どもたちの姿を夢見、今、新しい時代を展望した教育を創造する場に携わっているという気概をもって臨みたい。

未来からの視点と、学校経営の専門家として、新しい時代の教育の創造に携わっている決意から「鋭い時代感覚と強い使命感をもち、共に行動する校長会」を掲げ、本道教育の具体的な問題や課題に対して積極的に取り組もうと考えている。

北海道小学校長会は、どんなに困難な状況であろうとも、明日の社会を逞しく生き抜く子どもを育むことを大切にする。そして、子どもたちの成長と本道の教育に責任をもつ校長会として、道教委・市町村教委との信頼関係をさらに深め、全道の校長先生方と平成26年度の活動を推進したいと考える。

終わりに、ご来賓、教育関係団体の皆様には、本会の発展のために一層のご支援をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶とする。